

第10回宇宙輸送システム部会 議事要旨

1. 日時：平成25年10月21日（月） 9：00－10：30

2. 場所：内閣府宇宙戦略室5階会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、白坂部会長代理、緒川委員、木内委員、原委員、松尾委員、薬師寺委員

(2) 事務局

西本宇宙戦略室長、明野宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

(1) 新たな基幹ロケットの開発着手に当たり、整理すべき事項について

資料1「新たな基幹ロケット開発着手に当たり、整理すべき事項に関するとりまとめ（案）」は、部会として了承された。

(2) イプシロンロケットの高度化について

JAXAから資料2に基づいて説明があった。主な内容は以下のとおり。

○小型衛星の需要動向分析によると、我が国では2年に1機程度の打ち上げが予定（※）。

※宇宙科学・探査ロードマップ（平成25年9月19日宇宙科学探査部会）

○打ち上げ能力を有しない国の2020年までの小型衛星打ち上げ需要は、年5機程度と見込まれている。

続いて、木内委員から資料3に基づいて説明があった。主な内容は以下のとおり。

○イプシロンロケットの実績拡大のために、ASNARO2等をイプシロンロケットで打ち上げることを目指すべきである。

○イプシロンロケットの高度化は、今後の需要動向を見極めた上で、新たな基幹ロケット開発とのシナジーを意識した効率的な開発とすべき。

説明を受けて、以下のような意見があった

○自律性確保に加え、国際競争力の観点から議論を進めるべき。

○ERGの打ち上げ等に必要の小改修は将来の国際競争力につながるかたちで行うべき。

○ミューロケットからイプシロンロケットに移行した際に、ロケットの自動点検など新しいコンセプト、イノベーションが取り入れられた。イプシロンロケッ

トの高度化にあたってそのような観点も議論すべき。

○イプシロンロケットの運用段階での効率的な営業体制の構築も重要。

以 上